



NERPS インターンシップ体験記（2022年度） 門澤里香

私は、2022年の4月から2023年の3月までの人間社会科学研究科博士課程前期第2学年に所属する1年間、NERPSでのインターン生として活動しました。

主な業務は前年度の活動内容を引き継ぎ、SNSやホームページを通してのSDGsに関する学内情報発信を行いました。そのほかにも、広島大学が主催する公開講座のサポートや、SDGsレポートの学生ページの編集を担当するなど、時期によって様々なことを経験させていただきました。

今年度は、前年度を通してSNSにある程度のフォロワーを獲得したことから、そのSNSをさらに活用して、広島大学の学生のSDGsに関する取り組みを発信することで、内部にも外部にもSDGsの取り組みを伝播させ、広島大学からSDGsを盛り上げていくことを目標として設定し、1年間の活動に取り組みました。具体的には、広大学生に自分のSDGsへの取り組みを発信してもらう#わたしのワンアクションプロジェクトというキャンペーンの実施、SDGsに取り組む学生紹介投稿のシリーズ化、そして例年NERPSが作成しているSDGsレポートの新たな試みとして、学生の活動紹介ページを自身が主体となって作成しました。

また、SDGsについて発信するためには、発信者が正しい知識を持ち合わせていることが必要となってきます。そのため、単なる業務をこなすだけでなく、活動を通してSDGsについての新たな知見と考察を得ることができ、自身の研究をさらに深めることもできました。特に、NERPSホームページに掲載するための「SDGsゴール16“平和と公正をすべての人に”とは？」という記事の作成を行なったときには、ゴール一つとっても、知っているようで知らないことが多くあることを実感し、さらなる理解につなげることができました。

【修士論文のテーマについて】

修士論文では、広島での平和教育がもたらしている若者の平和意識に興味を持ち、アンケート調査と分析を用いて、広島の高校生の平和意識と、その基盤にある平和観について考察し、両者の関係性を検討しました。自身の広島での平和教育の経験から、戦争体験・被爆体験に重点が置かれた広島での平和教育、またその達成指標として戦争体験・被爆体験に関する知識の定着度を見られることが多い現状に違和感を感じたのがきっかけです。研究を通して、平和観は平和意識に大きく影響しており、その基盤となる平和観の大部分は、平和教育によって形成されていると結論づけました。そして詳しい分析結果からは、広島の高校生は「被爆体験」という他地域より身近に感じられる平和観の要素を持っており、それによって「平和」への行動の具体化につながりやすいということが明らかになりました。他方、この特異性は具体化が容易になるという明るい面だけでなく、同時に「戦争」という想像しづらい、かつスケールの大きいイメージの影響で、無力感につながる危うさも孕んでいます。実際に、この特異性の影響から無力感を感じている生徒の存在も明らかになっており、広島の強みである「戦争・原爆」に強い関連性のある活動は、実は無力感と隣り合わせにあると考えます。今後は今以上に、若者にとって戦争体験者の存在が遠くなり、身近に感じられなくなることで、この危うさがより大きくなることを、私は懸念しています。このような懸念を打開するため、広島のみで閉じ込められた、被爆体験に関わる平和のみならず、構造的平和や個人レベルの身近な平和も包括しながら、諸問題に対応できるような人材育成が必要となってくるでしょう。このような人材育成の一端をSDGsが担うことができるのではないかと私は期待しています。

【修士論文の執筆とNERPSでの経験を踏まえて】

私は、修士論文の問題意識の一つとして、平和観が「戦争・原爆」に偏ることによる、若者の平和への無力感を挙げて、この論文を執筆しました。実際に調査を通して明らかになったのは、「平和」と聞いて「戦争」をイメー



ジしてしまうことにより、「平和」を実現するために自分に何ができるのかわからない、またはやっても意味がないと思ってしまう生徒の存在です。広島には、「平和」という言葉が常に身近にある影響から、平和に興味を持つ若者が比較的多く、平和な社会構築のための人材として可能性のある若者が溢れています。しかし、そのような若者は広島における平和に接近すればするほど、無力感を感じてしまい、諦めてしまう若者が存在するのが現状です。実際に、私が平和活動に参加する中でも、そのような若者を何人か見てきました。

今回、私がインターンシップでの活動を通して1番感じたことは、小さなことからでも平和への貢献ができ、その全ての行動が繋がっているということです。人にはそれぞれ得意不得意があります。つまり、できないことももちろんありますが、絶対一人一人に、何かしらできることがあるということです。そして、その平和への行動を細分化して教えてくれているのが、SDGsなのではないかと私は考えています。一人では平和を実現することは難しく、無力感を感じてしまうかもしれませんが、それぞれの得意不得意を補い合い、得意を繋げていけば、必ず平和は実現できると私は信じています。例えば、私はインターンシップを通して、自身のデザイン・Webというスキルを用いて、SDGsの啓発のためのチラシや画像を作成したり、Webの発信をすることで、平和に貢献しました。それぞれが自分にできることを見つけるためには、SDGsのゴールを一つずつきちんと見ていくことが必要です。そのために、SDGs教育を通して、社会にある問題に関する知識の基盤をつくり、自分の特技を使ってできる諸問題に対する行動を考えられる人材育成に力を入れていくことが、日本はもちろん、世界全体の持続可能な平和を作っていくことに大きく貢献するのではないのでしょうか。

1年間のNERPSでのインターンシップを通して、SDGsについて改めて深く理解することができ、自身の研究・行動にもつなげることができました。点と点がつながって線になるように、今後の自分の社会への貢献がいろんな方面に繋がって平和に貢献できるよう、繋がりを意識しながら精一杯がんばります。お世話になったNERPSの方々、依頼を快く受け入れてくださった学内の職員、学生の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2023年3月24日 門澤里香